

企業名：株式会社島津製作所

レポート名：島津 統合報告書2024

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

理解できる。

統合報告書の7～9ページにかけて、島津製作所のCEOである山本靖則氏の言葉がトップメッセージとして掲載されており、主に中期経営計画の進捗と今後の展望や、事業ポートフォリオ、コーポレートガバナンスにおける現在地および今後に向けた施策が記載されている。ページ数が限られているものの、端的かつ明確な記述がなされており、読者が島津製作所の将来の姿を容易にイメージできる、と感じた。また、31ページ以降では島津製作所の中期経営計画が記載されており、こちらではより具体的な戦略を理解することができ、投資家にとって非常に参考になる情報が多々掲載されていると感じた。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

理解できなかった。

13～30ページにかけて、「価値共感×競争ストーリー」といった項目が掲載されており、そこでは島津製作所の強みが分かりやすく掲載されている。しかし、この設問の文言である「競争優位性」というキーワードに着目したときに、競合他社と比較してどうか、あるいは精密機器業界内ではどのような立ち位置か、という点が全体的に抜け落ちていたと考えている。例えば、25～30ページにかけて島津製作所の産学連携について紹介していたが、ここでも、精密機器業界に属する他社は、どの程度産学連携を実施しているのか、ということ、何かしらの指標を用いて比較できていれば良いと思った。まとめると、島津製作所の「強み」は十二分に理解できたが、「競争優位性」はあまり理解できなかった。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

やや理解できる。

31～95ページにかけての中期経営計画についての記載の中で、島津製作所の各事業の将来のニーズやそれを満たすための合理的な戦略、および海外事業の現在地や将来の展望について、ページを割いて詳細に書かれており、投資家にとって非常に価値のあるもので

あるという印象を受けた。しかし、2でも指摘した通り、競合他社と比べてどうか、という視点が今ひとつであったように思う。そのため、この評価はやや理解できるとさせてもらった。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

思う。

統合報告書の85～86、89～90ページにかけて、グローバル人財の育成や、人事担当役員による人財育成方針が掲載されているが、非常に具体的な内容となっており、かつ統合報告書において前のページで述べられていた、将来の戦略とも一貫性のある内容となっていた。一読するだけで、島津製作所に入社した後、どのようなキャリアを歩めるのかが鮮明にイメージできた。また、111～114ページにおいては、従業員の健康をどのように実現するか、ということについて触れられており、従業員という大切なステークホルダーを重要視している様子が見てとれる。以上の点から、人的資本の価値向上を達成できると考える。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

良かった点は2点ある。1点目は、上でも述べたように、島津製作所の将来の姿や人的資本の価値向上について、具体的なイメージを持てる点である。2点目は、その項目に関する担当者の顔を逐一表示していた点である。顔写真があるだけで良い印象を受けるし、安心感が生まれる気がした。

また、改善の余地が残された点は2点あると感じた。1点目は、先にも述べたように、島津製作所の競争優位性が理解し難い点である。島津製作所の「強み」は十分すぎるほど理解できたが、競合他社との比較に乏しかったため、「競争優位性」は少々わかりづらい内容になっていたと感じる。2点目は、デザインの面で、文字数が多すぎるように見えた点である。企業側としては統合報告書に様々な内容を記載しなければならないため、文字数の削減には非常に腐心すると思う。精密機器業界に明るいステークホルダーが読む分には何の障害にもならないと思うが、私のように精密機器業界に大した知識が無い読者にとって、一読するのに相応の根気を要すると感じた(そもそも、私のような人間は本来ターゲットではないかもしれない)。